

いちご^{いちえ}一会とちぎ大会

第22回 全国障害者スポーツ大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022

第22回全国障害者スポーツ大会
栃木県準備委員会

第3回会議



とちまるくん

「いちご^{いちえ}一会とちぎ大会」
マスコットキャラクター

平成30年3月7日（水）
栃木県公館 大会議室

第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会

第 3 回会議 資料目次

○審議事項

第 1 号議案	第 22 回全国障害者スポーツ大会 競技役員等養成基本方針（案）について	P1
第 2 号議案	第 22 回全国障害者スポーツ大会 ボランティア養成基本方針（案）について	P3
第 3 号議案	第 22 回全国障害者スポーツ大会 県民運動基本方針（案）について	P6
第 4 号議案	第 22 回全国障害者スポーツ大会 会場地選定（案）について	P8

○協議事項

協議事項 1	第 22 回全国障害者スポーツ大会 式典基本方針（素案）について	P9
協議事項 2	第 22 回全国障害者スポーツ大会 宿泊等基本方針（素案）について	P10
協議事項 3	第 22 回全国障害者スポーツ大会 輸送・交通等基本方針（素案）について	P12

第22回全国障害者スポーツ大会 競技役員等養成基本方針（案）

円滑な競技運営と、障害者スポーツの普及・振興を図ることを目的として、競技運営主管団体等の協力のもと、競技役員及び競技補助員を養成する。

競技役員は、競技運営や審判、競技記録等の業務を行う。
 競技補助員は、競技役員の指示を受けて、競技運営の補助を行う。

1 競技役員等及び養成協力団体（想定）

競技名		競技役員	競技補助員	競技運営主管団体	協力団体
個人競技 (6競技)	陸上競技(身・知)	370人	200人	一般財団法人 栃木陸上競技協会	高等学校・短期大学・大学・専修学校等
	水泳(身・知)	120人	80人	栃木県水泳連盟	
	アーチェリー(身)	40人	100人	栃木県アーチェリー協会	
	卓球(身・知) [STT(身)を含む]	180人	40人	栃木県卓球連盟	
	フライングディスク(身・知)	130人	190人	栃木県障害者フライングディスク協会	
	ボウリング(知)	40人	30人	栃木県ボウリング連盟	
	小計	880人	640人		
団体競技 (7競技)	バスケットボール(知)	70人	60人	一般社団法人 栃木県バスケットボール協会	
	車椅子バスケットボール(身)	50人	60人		
	ソフトボール(知)	80人	40人		
	グラウンドソフトボール(身)	100人	40人	栃木県ソフトボール協会	
	フットベースボール(知)	70人	40人		
	バレーボール(身・知・精)	120人	270人	栃木県バレーボール協会	
	サッカー(知)	90人	60人	公益社団法人 栃木県サッカー協会	
	小計	580人	570人		
合計		1,460人	1,210人		

※実施競技は、平成29(2017)年度「全国障害者スポーツ大会競技規則」による。

2 競技役員等の養成計画

(1) 競技役員

競技運営を円滑に実施するため、障害者スポーツに対応できる役員を養成する。

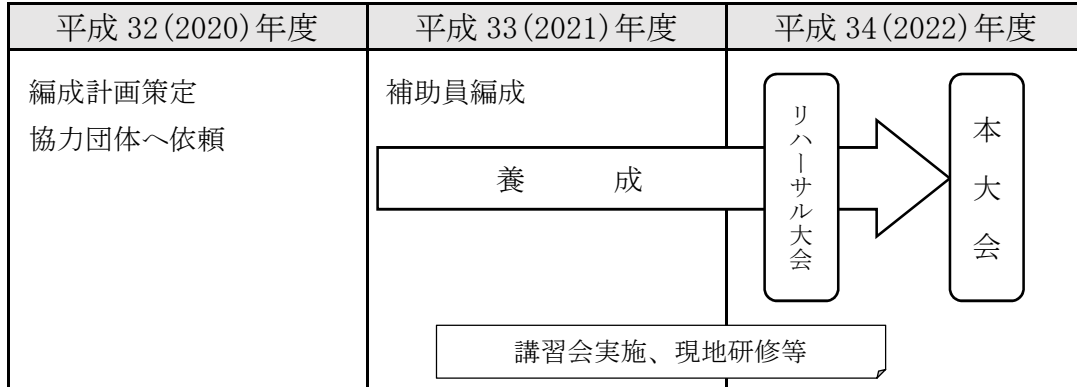
【養成スケジュール】



(2) 競技補助員

競技役員の手配を受けて競技運営を補助する競技補助員を養成する。

【養成スケジュール】



第22回全国障害者スポーツ大会 ボランティア養成基本方針（案）

第22回全国障害者スポーツ大会に参加する選手・監督、役員、視察員、報道員及びその他関係者（以下「大会参加者」とする）並びに一般観覧者に対して、心のこもったボランティア活動を展開するため、大会参加者や一般観覧者を温かくもてなす「大会運営ボランティア」をはじめ、手話や要約筆記等の専門技能で情報提供を行う「情報支援スタッフ」、選手団と行動を共にし、選手の実力を最大限に引き出す「選手団サポーター」など、各種ボランティアを計画的に養成する。

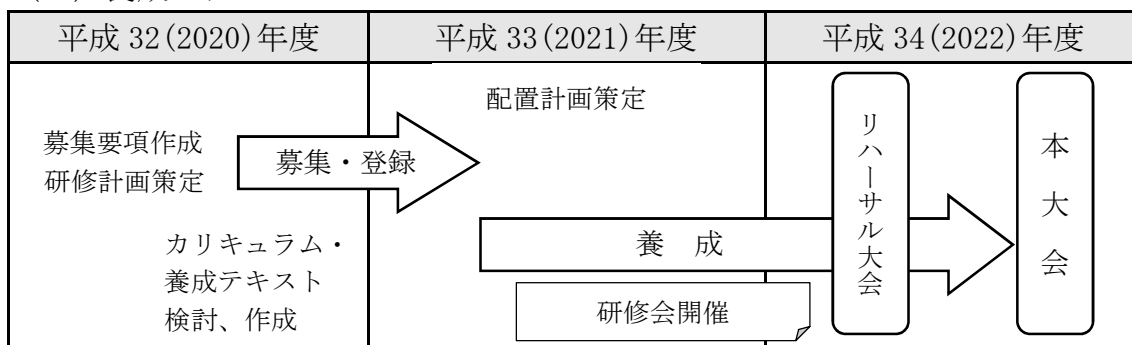
1 大会運営ボランティア

大会参加者及び一般観覧者をおもてなしの心でお迎えするため、第77回国民体育大会と一体となって、大会運営ボランティアを広く県民から募集する。

（1）種別及び内容（想定）

種 別	内 容	人 数
案内・介助	総合案内所などでの案内・誘導・介助	3,500人
会場整理	観客の改札、案内、誘導等	
会場美化	飾花の管理、会場内の清掃等	
会場サービス	弁当・飲み物の配布等	
式典	開・閉会式等の式典補助	
ふれあい広場	ふれあい広場の運営補助等	

（2）養成スケジュール



2 情報支援スタッフ

聴覚障害者への情報保障を図るとともに、すべての人に分かりやすい情報提供を行うため、関係団体等の協力を得ながら、各種情報支援スタッフを養成する。

(1) 種別及び内容 (想定)

種 別		内 容	人 数	
手 話		手話による情報の提供及びコミュニケーション保障	400人	
要約筆記	手書き	ノートテイクやホワイトボードを使用した情報の提供	150人	200人
	パソコン	パソコンに入力したデータ情報による情報の提供	50人	
合 計			600人	

(2) 養成協力団体

社会福祉法人栃木県社会福祉協議会（とちぎ視聴覚障害者情報センター）等

(3) 養成スケジュール

平成 30 (2018)年度	平成 31 (2019)年度	平成 32 (2020)年度	平成 33 (2021)年度	平成 34 (2022)年度
参加意向調査 カリキュラム・ 養成テキスト 検討	カリキュラム・ 養成テキスト 作成		配置計画策定	
指導者・リーダー養成				
	普及啓発研修会 開催	募集・登録	養成	リハール大会 本大会
			研修会開催	

3 選手団サポーター

大会に参加する選手及び役員の介助・誘導等のサポートを行い、大会運営の円滑化を図るとともに、選手との交流を通して次世代の若者が障害のある人への理解を深め、大会終了後も、様々なボランティアとして地域で活躍するきっかけとなるよう、学生等で構成する選手団サポーターを養成する。

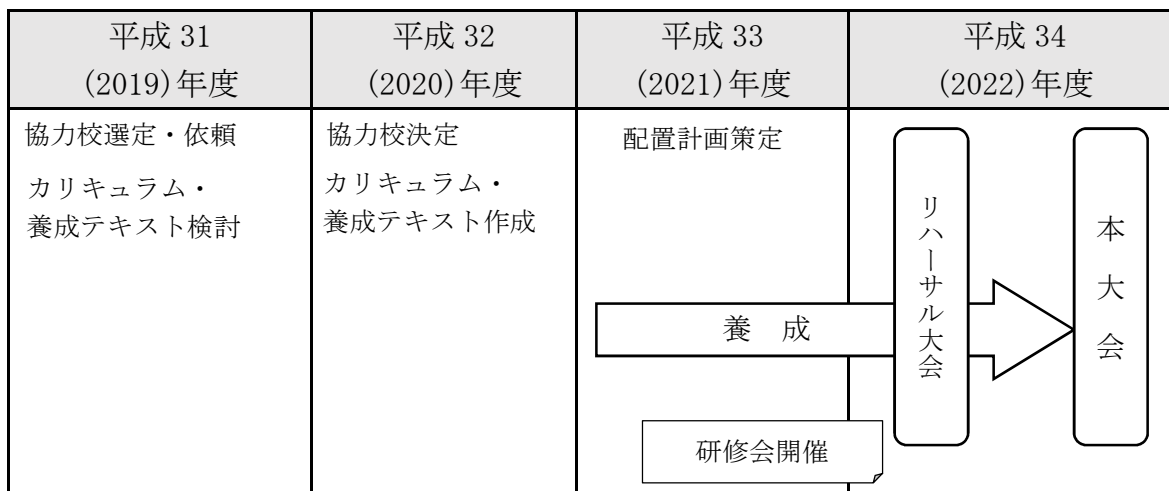
(1) 種別及び内容 (想定)

種 別	内 容	人 数
選手団サポート	選手団の歓送迎・介助・誘導・交流等	800人

(2) 養成協力団体

大学・専修学校 等

(3) 養成スケジュール



第22回全国障害者スポーツ大会 県民運動基本方針（案）

第22回全国障害者スポーツ大会（以下、大会愛称「いちご^{いちえ}一会とちぎ大会」とする）の県民運動は、第77回国民体育大会（以下、大会愛称「いちご^{いちえ}一会とちぎ国体」とする）と一体となり、県民一人ひとりが「いちご^{いちえ}一会とちぎ大会」への理解を深め、様々な形で参加、協力することにより、県民すべてが夢と希望を抱き、感動を分かち合うとともに、来県者をおもてなしの心で温かく迎える大会の実現を目指して展開する。

また、「いちご^{いちえ}一会とちぎ大会」の開催を契機に、障害者スポーツのより一層の普及・振興を図るとともに、障害の有無に関わらず県民誰もが共に支え合う「共生社会」の実現に寄与することを目的とする。

1 県民運動の推進

(1) 基本目標

- ア すべての県民が両大会のイベントやボランティア活動などに主体的に参加し、地域が一体となって大会を盛り上げる。
- イ すべての県民が来県者を心のこもった温かいおもてなしで迎える。
- ウ すべての県民が障害者スポーツとの様々な関わりを通じて、障害者スポーツに対する意欲や関心を高め、障害者スポーツ活動に親しむ。
- エ すべての県民が障害や障害者に関する理解を深め、障害のある人もない人も共に支え合う心を醸成する。
- オ すべての県民が来県者との交流を通じて、多彩な栃木県の魅力を発信する。

(2) 運動の進め方

- ア 県民運動は、県民一人ひとりの様々な活動への自発的、積極的な参加を基本として推進する。
- イ 関係機関・団体、学校、企業、NPO、ボランティア等は、県民運動の担い手として普及・啓発を行うとともに、それぞれが連携を図りながら、自主的な活動を積極的に行う。
- ウ 県準備（実行）委員会は、「いちご^{いちえ}一会とちぎ国体」と一体となった普及・啓発活動を行うとともに、市町村や各種団体等と連携を図り、全県的な運動の展開を支援する。
- エ 市町村準備（実行）委員会等は、県民運動の普及・啓発活動を行うとともに、地域住民や各種団体等と協力して、地域の特性に応じた活動を推進する。

2 児童生徒等の参加の促進

児童生徒等が障害や障害者に対する理解を深めるとともに、障害者スポーツの普及を図るため学校等と密接に連携し、式典への参加や競技会場での応援等、「いちご一会とちぎ大会」への参加を促進する。

3 ふれあい広場の設置

県、会場地市町村、福祉関係団体、ボランティア団体等と連携し、開・閉会式会場及び競技会場に「ふれあい広場（仮称）」を設置する。

- (1) 障害者就労支援事業所が提供する物品の販売を通じた障害福祉の普及・啓発活動
- (2) レクリエーションなどを通じた県民と選手の交流活動
- (3) 栃木県の自然・文化・歴史の紹介や、県産品の販売等による魅力発信

第22回全国障害者スポーツ大会 会場地選定（案）

開・閉会式及び競技の会場は、円滑な式典・競技運営や宿泊等の利便性、選手の負担軽減等を考慮しながら、第77回国民体育大会で使用される施設等を活用し、障害のある人に配慮した会場とする。

※会場地選定（案）は、第22回全国障害者スポーツ大会栃木県準備委員会第3回会議 当日配布予定。

第22回全国障害者スポーツ大会 式典基本方針（素案）

第22回全国障害者スポーツ大会の式典は、第77回国民体育大会（以下、大会愛称「いちご^{いちえ}一会とちぎ国体」とする）と連携し、「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、障害の有無に関わらず県民誰もが共に支え合う「共生社会」の実現に寄与することを目的とする。

1 開・閉会式

(1) 参加者に配慮した式典運営

開・閉会式は、できるだけ簡素で効率的にし、十分な競技時間を確保するとともに、参加する選手・役員等の負担を軽減し、健康管理に十分配慮するものとする。

(2) 式典催事の内容

式典催事は、障害のある人もない人も、大会に参加するすべての人が一体となって感動と喜びを共有できるものとする。

(3) 音楽・演技等の構成

式典音楽・式典演技等は、「いちご一会とちぎ国体」を基本として、第22回全国障害者スポーツ大会開催基本方針を踏まえた構成とする。

(4) 荒天時の対応

荒天時の開・閉会式については、規模を縮小して実施する。

(5) リハーサルの実施

開・閉会式の円滑な運営を図るため、リハーサルを実施する。

(6) 参加者への情報提供

式典に関する情報が、あらゆる人にわかりやすく提供できるように配慮する。

2 炬火

(1) 炬火点火・納火

炬火は、開会式において主会場の炬火台に点火し、大会期間中、選手たちの活躍を見守り続けた後、閉会式において納火する。

(2) 炬火イベント

全県的な大会機運の高揚と、障害に対する理解を深めるため、「いちご一会とちぎ国体」と連携した炬火を活用したイベントの実施を検討する。

第22回全国障害者スポーツ大会 宿泊等基本方針（素案）

第22回全国障害者スポーツ大会に参加する選手・監督、役員、視察員、報道員及びその他の関係者（以下、「大会参加者」とする）の宿泊施設の確保と大会参加者の障害特性に合った適切な配宿に努めるとともに、大会参加者及び一般観覧者の医事・衛生に万全を期すものとする。

1 宿泊

大会参加者が心身ともに良好な状態で大会に臨めるよう、関係機関・団体等の協力を得て、おもてなしの心をもって快適な宿泊施設の確保に努める。

(1) 参加意向調査

宿泊施設ごとの受入数を調整するため、大会参加者の障害の程度や宿泊数等の調査を実施する。

(2) 宿泊施設調査

大会参加者の特性に合った適切な配宿を行うため、宿舎の客室タイプや設備等の調査を実施する。

(3) 宿泊環境整備

大会参加者が快適に宿泊できるよう、宿泊施設のバリアフリー化について理解を求めるとともに、必要に応じてシャワーチェアや浴槽マットなどの宿泊支援用具を配置するほか、エレベーターに点字シールを設置するなど、宿泊環境の向上に努める。

(4) 宿泊料金の設定

第77回国民体育大会（以下、大会愛称「いちご^{いちえ}一会とちぎ国体」とする）との連携を図り、関係団体等と協議の上、宿泊料金を設定する。

(5) 配宿

大会参加者の障害の程度や会場までの交通、大会スケジュールなどに配慮した配宿に努める。

(6) 接遇講習会

大会参加者へのサービスの向上と真心あふれるおもてなしを実践するため、宿泊施設の従事者を対象に、障害に関する接遇講習会を実施する。

(7) 食事

大会参加者に提供する食事は、安全・安心で栄養バランスが良く、豊かな自然と良質な水に育まれた栃木県産の様々な食材を利用した郷土色豊かな「いちご一会とちぎ国体」の献立を準用する。

【参考：宿泊者数（想定）】

選手団	大会関係者
約 5,500 人	約 1,500 人
1 日最大 7,000 人 延べ 30,000 人程度	

2 医事・衛生

大会参加者及び観客の安全と健康のため、関係機関及び団体等の協力を得て、医療救護や防疫の体制を整える。

また、食品衛生の徹底を図り、会場の清掃や廃棄物の適切な処理を行い、清潔で快適な環境を整える。

第22回全国障害者スポーツ大会 輸送・交通等基本方針（素案）

第22回全国障害者スポーツ大会に参加する選手・監督、役員、視察員、報道員及びその他の関係者（以下、「大会参加者」とする）並びに一般観覧者の安全かつ確実な輸送を行うよう努めるとともに、観光情報など栃木県の魅力に触れる機会を提供する。

1 輸送

大会参加者及び一般観覧者の安全かつ円滑な輸送を行うため、関係機関・団体等の協力を得て、道路及び交通状況を十分考慮した輸送体制の整備に努める。

(1) 全国輸送

全国から来県する大会参加者の集合・解散は、自由集合・自由解散とする。

また、関係機関等の協力を得て、安全かつ円滑な輸送の確保に努める。

(2) 県内輸送

大会参加者については、借上バス・タクシーなどにより計画的に輸送を行う。その際は必要に応じて、低床バスや福祉車両等バリアフリーに対応した車両を活用する。

また、一般観覧者については、公共交通機関の利用やシャトルバスの運行等により円滑な輸送に努める。

(3) 車両及び駐車場

大会参加者及び一般観覧者の輸送に必要な車両については、関係機関等の協力を得て、その確保に努める。

また、大会参加者及び一般観覧者の駐車場や乗降場を確保し、輸送の円滑化に努める。

(4) 交通安全対策

大会期間中における交通安全の確保と交通混雑の緩和を図るため、関係機関等のもとより、広く県民に協力を求め、実情に応じた適切な対策を講じる。

2 観光

全国から来県した大会参加者や一般観覧者に、栃木県の魅力に触れる機会を提供し、空き時間を利用しての観光や買い物を積極的にサポートするため、関係団体との連携のもと、観光や県産品の情報提供を行う。

VERY 
GOOD
LOCAL

とちぎ

とちぎブランド推進のキャッチフレーズ

ベリー グッド ローカル とちぎ
VERY  GOOD LOCAL

「グッドローカルなとちぎが地方のモデルになっていこう。」
ローカルの良さが詰まったとちぎが、前向きな決意を込めて宣言します。